

SNS における

同性婚訴訟の判決に対するコメント分析

—性的少数者を取り巻く負の循環を絶ちきるために—

山崎樹弥

「多様性」という言葉が浸透しつつある世界において、日本はなぜ性的少数者の権利獲得が他先進国に比べ遅れているのだろうか。その原因として、当事者の存在をないものとさせてしまう社会的な負の循環の存在が考えられる。そして、その循環の一要因に SNS における批判的な言葉の存在があるのではないか。本稿では、当事者を取り巻く負の循環を絶ちきるためにはどのようなアプローチが必要なのかを、過去の性的少数者に関する事象が世間にどのような影響を与えたのかを述べた上で考察した。加えて、性的少数者の権利として代表的な同性婚に焦点をあて、その法制化のためになにが必要なのかを探るため、同性婚訴訟の判決結果に対する SNS コメント 2400 以上の分析を行った。

日本における性的少数者に関する事象を踏まえ、負の循環を絶ちきるために必要なアプローチとして、本論では①同性婚などの性的少数者を対象とする法整備をすすめること、②正しい知識や理解を広めることで差別的場面の形成を防ぐこと、③当事者達が沈黙せずに声をあげることの3点を提言する。また、SNS の調査から、同性婚の法制化のために必要なこととして、①婚姻制度導入における不安を取り除くこと、②偏った認識や誤った認識を払拭させること、③同性婚訴訟などを通して、憲法解釈について納得のいく判断をとることが必要となってくることの3点が明らかとなった。

同性愛者以外の性的少数者にも権利取得や差別解消へ繋げるために、同性婚以外の事象を対象とした調査を行うこと、調査方法を改善することが課題として浮かび上がった。また、SNS のみならず、生の声を収集するといった別の側面からの調査を併用することで新たな発見があるかもしれない。